衛星版 BLB 損害評価ツールインストールガイド

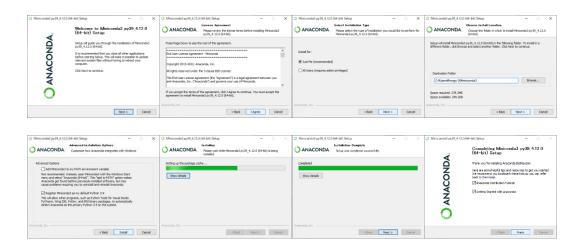
本マニュアルでは衛星版 BLB 損害評価ツール (SatelliteTool) およびその実行に必要なソフトウェアを Windows PC にインストールする方法について説明する。以下にインストールの手順を示す。

- 1. Miniconda3 のインストール
- 2. Python モジュールのインストール
- 3. JAVA のインストール
- 4. SNAP のインストール
- 5. SatelliteTool のインストール

1. Miniconda3 のインストール

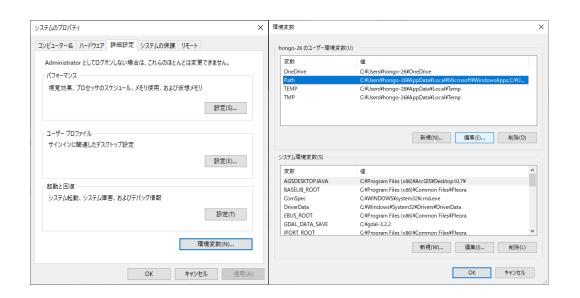
● 以下の URL からダウンロードした Miniconda3 のインストーラ(例:
Miniconda3-py39_4.12.0-Windows-x86_64.exe)を実行して Miniconda3 をインストールする。インストールの設定は全て初期値(デフォルト)のままで構わない。動作確認された Python のバージョンは 3.9。

https://docs.conda.io/en/latest/miniconda.html



● 環境変数 Path の設定

デスクトップ上の Windows アイコンを右クリック -> 設定 -> 詳細情報 -> システムの詳細設定 -> 環境変数(N)... をクリックして環境変数の設定画面を表示させる。

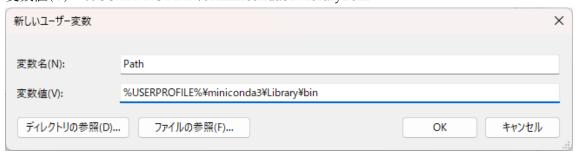


ユーザー環境変数に元から変数 Path があるかどうかによって、(1)または(2)のように Path の設定を行う。

(1) ユーザー環境変数に変数 Path がない場合、以下のようにユーザー変数 Path を新規作成する。

変数名(N): Path

変数値(V): %USERPROFILE%¥miniconda3¥Library¥bin



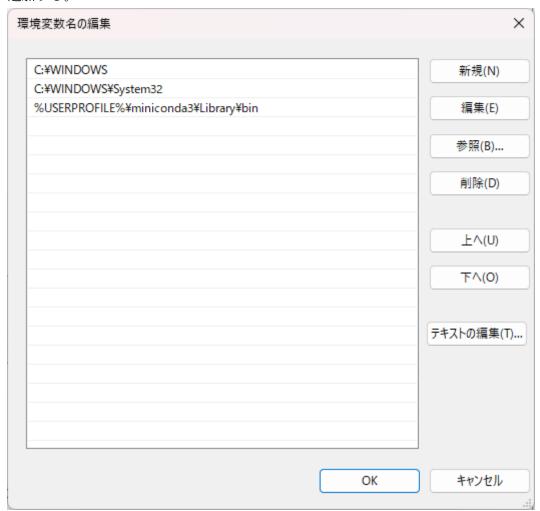
- (2) ユーザー環境変数に変数 Path がある場合、(2-1)または(2-2)のようにユーザー変数 Path を編集する。
- (2-1) 値にパスが一つしか含まれていない場合 (例: C:\UNDOWS) 「ユーザー変数の編集」において変数値にセミコロン (;) で区切って %USERPROFILE%\Uniterate miniconda3\Uniterate Library\Uniterate bin を追加する。

ユーザー変数の編集			×
変数名(N):	Path		
変数値(V):	C:¥WINDOWS;%USERPROFILE%¥miniconda3¥Library¥bin		
ディレクトリの参照(D)	ファイルの参照(F)	ОК	キャンセル

(2-2) 値にセミコロンで区切られたパスが複数含まれている場合 (例:

C:\forall WINDOWS; C:\forall WINDOWS\forall System 32)

「環境変数名の編集」において新規で%USERPROFILE%¥miniconda3¥Library¥bin を 追加する。



Path を設定したら、一度 Anaconda PowerShell Prompt を閉じて再起動する。

2. Python モジュールのインストール

● 手順 1 でインストールされた Anaconda Powershell Prompt で以下のコマンドを実行し、Python モジュールをインストールする。

```
conda install -c conda-forge zlib -y
conda install -c conda-forge numpy -y
conda install -c conda-forge scipy -y
conda install -c conda-forge pandas -y
conda install -c conda-forge xlrd==1.2.0 -y
conda install -c conda-forge openpyxl -y
conda install -c conda-forge matplotlib -y
conda install -c conda-forge ipython -y
conda install -c conda-forge scikit-learn -y
conda install -c conda-forge scikit-image -y
conda install -c conda-forge statsmodels -y
conda install -c conda-forge geopandas -y
conda install -c conda-forge rasterio -y # Optional
conda install -c conda-forge rasterstats -y # Optional
conda install -c conda-forge pyshp -y
conda install -c conda-forge cartopy -y # for Transplanting
conda install -c conda-forge psutil -y
conda install -c conda-forge xmltodict -y
conda install -c conda-forge 7zip -y
pip install tkcalendar
pip install tkfilebrowser
pip install PyDrive2 # Optional
pip install -U csaps
pip install sentinelsat
```

^{※ &}quot;for Transplanting"は作付日推定に必要(SatelliteToolには不要)。

^{※ &}quot;Optional"は現状のスクリプトには使われていない。

```
■ Anaconda Powershell Prompt (miniconda3)

(base) PS C:¥Users¥hongo-26> conda install -c conda-forge zlib -y
Collecting package metadata (current_repodata.json): -

^
```

● constants.py の修正

```
%USERPROFILE%¥miniconda3¥Lib¥site-packages¥tkfilebrowser¥constants.py(86 行目付近)を以下のように修正する。(後ろに LANG = 'en'を追加)
修正前:
```

try:

LANG = locale.getdefaultlocale()[0]

except ValueError:

LANG = 'en'

修正後:

--- translation

try:

LANG = locale.getdefaultlocale()[0]

except ValueError:

LANG = 'en'

LANG = 'en' # <- added

● Windows 環境変数の追加

手順1の(1)と同様の方法で、ユーザー変数 PROJ_LIB を新規作成する。

変数名(N): PROJ_LIB

変数値(V): %USERPROFILE%¥miniconda3¥Library¥share¥proj

環境変数を追加したら、一度 Anaconda PowerShell Prompt を閉じて再起動する。

3. JAVA のインストール

● Oracle JDK のインストール

以下の URL からダウンロードした Java SE Development Kit のインストーラ(例: jdk-8u202-windows-x64.exe)を実行して JAVA をインストールする。動作確認された JAVA のバージョンは 8u202。

https://www.oracle.com/java/technologies/javase/javase8-archive-downloads.html





● Windows 環境変数の追加

手順1の(1)と同様の方法で、ユーザー変数 JAVA_HOME を新規作成する。

変数名(N): JAVA_HOME

環境変数を追加したら、一度 Anaconda PowerShell Prompt を閉じて再起動する。

● Maven のインストール

以下の URL からダウンロードした Apache Maven のバイナリファイル(例: apachemaven-3.6.3-bin.zip)を展開し、中身を C:\Program Files\Maven の下に移動する。動作確認された Maven のバージョンは 3.6.3 および 3.8.6。

https://maven.apache.org/download.cgi



● 環境変数 Path の設定

手順 1 の(2)と同様の方法で、ユーザー環境変数 Path に上の手順で作成された Maven の bin フォルダ(例:C:\Program Files\PMaven\Papache-maven-3.6.3\Pin)を追加する。

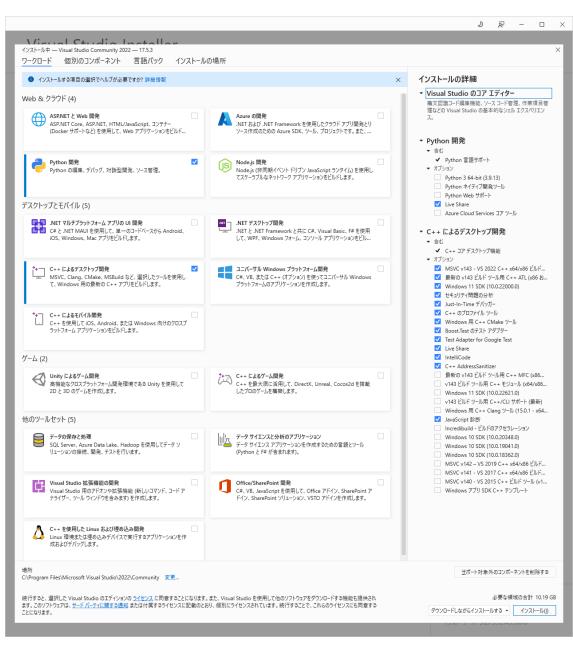
Path を設定したら、一度 Anaconda PowerShell Prompt を閉じて再起動する。

● Visual Studio のインストール

以下の URL からダウンロードした Visual Studio のインストーラ(例: Visual Studio Setup.exe)を実行して Visual Studio をインストールする。インストールの際、Python 開発と C++によるデスクトップ環境開発は必ず選択する。動作確認された Visual Studio のバージョンは 2022。

https://visualstudio.microsoft.com/downloads/

× Visual Studio Installer 作業を開始する前に、インストールを構成するためにいくつかの点を設定する必要があります。 ブライバシーについて詳しくは、Microsoft ブライバシーに関する声明をご覧ください。 続行すると、Microsoft ソフトウェア ライセンス条項に同意したことになります。	Visual Studio Installer Visual Studio インストーラーの準備をしています。 ダウンロード済み インストール中
続行(Q)	





● jpy のインストール

以下の URL からダウンロードした jpy のソースファイル(jpy_master.zip)を展開する。

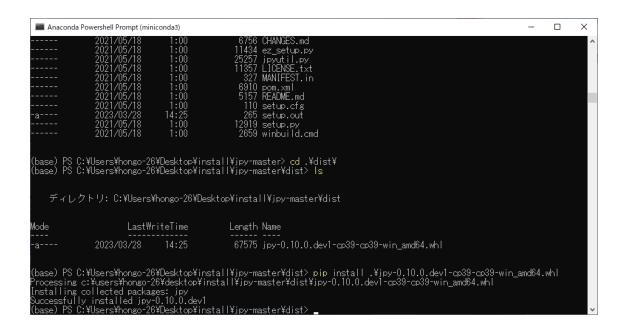
https://github.com/bcdev/jpy

Anaconda Powershell Prompt で jpy_master.zip を展開してできたフォルダに移動し、以下のコマンドを実行して jpy のビルドを行う。

python setup.py build maven bdist_wheel



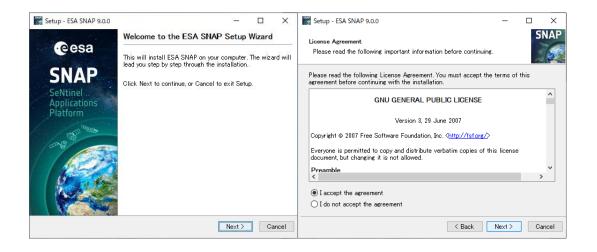
ビルドが完了したら dist フォルダが作成されるので、Anaconda Powershell Prompt で dist フォルダに移動し、以下のコマンドを実行して jpy をインストールする。 pip install .¥jpy-0.10.0.dev1-cp39-cp39-win_amd64.whl % cp39 の部分は Python のバージョンによって異なる可能性がある。

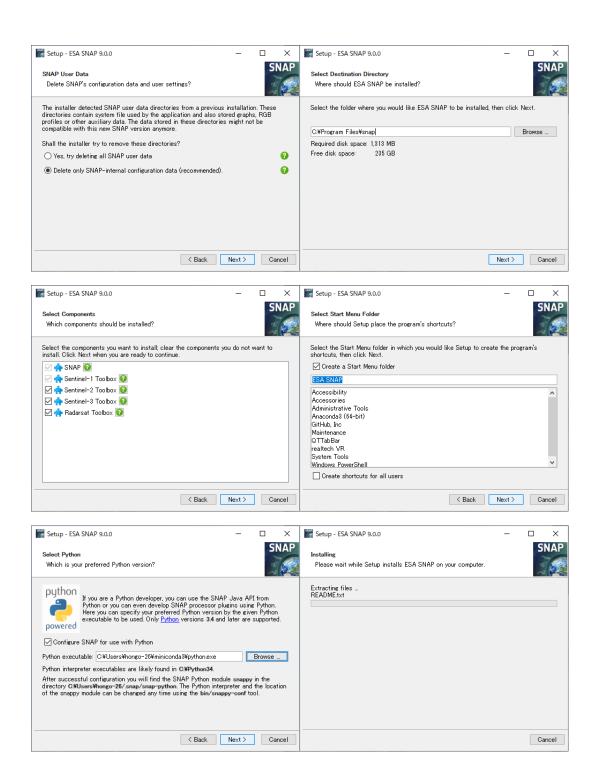


4. SNAP のインストール

● 以下の URL からダウンロードした SNAP のインストーラ(例: esa-snap_sentinel_windows-x64_9_0_0.exe)を実行して SNAP をインストールする。 動作確認された SNAP のバージョンは 9.0.0。

https://step.esa.int/main/download/snap-download/







インストール中、Select Python の画面で

☐ Configure SNAP for use with Python

というチェックボックスにチェックを入れ、

Python executable に Python 実行ファイルの場所 (%USERPROFILE%¥miniconda3¥python.exe) を入力する。

● Windows 環境変数の追加

以下のようにユーザー変数 SNAP_HOME を新規作成する。

変数名(N): SNAP_HOME

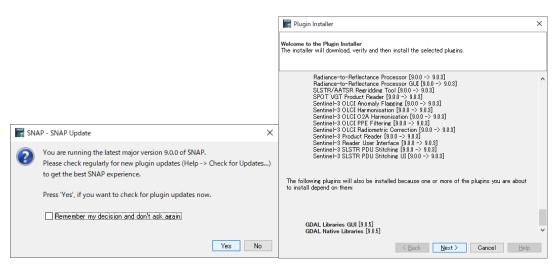
変数値(V): C:\Program Files\snap

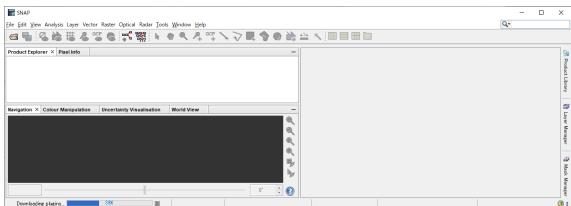
● 環境変数 Path の設定

手順1の(2)と同様の方法で、ユーザー環境変数 Path に%SNAP_HOME%¥bin を追加する。(SNAPのインストーラにより既に追加されている場合は不要。)

Path を設定したら、一度 Anaconda PowerShell Prompt を閉じて再起動する。

● SNAP を立ち上げるとアップデートするかどうか尋ねられるので、Yes を選択して SNAP をアップデートする。





アップデートを完了するには一度 SNAP を再起動する必要がある。(SNAP を再起動すると下のような画面が表示される。)



- %USERPROFILE%¥.snap¥snap-python フォルダの下に作成された snappy フォルダを%USERPROFILE%¥miniconda3¥Lib フォルダの下にコピーする。
- Anaconda Powershell Prompt で ipython または python を立ち上げ、 import snappy

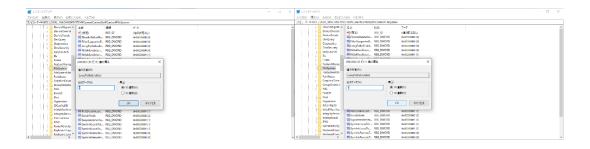
と入力して snappy をインポートできるかどうか確認する。



5. SatelliteTool のインストール

● Windows のファイルパス文字制限の解除

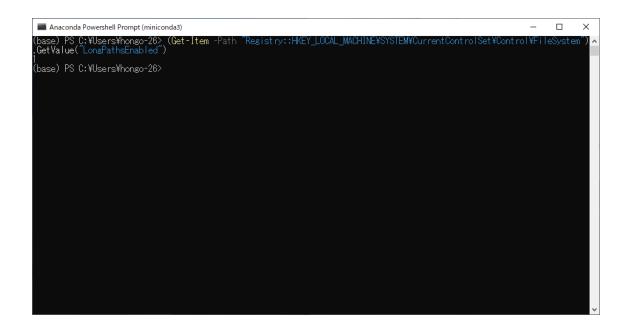
Windows の regedit を実行し、コンピューター > HKEY_LOCAL_MACHINE > SYSTEM > CurrentControlSet > Control > FileSystem にある LongPathsEnabled の値を 0 から 1 に変更する。



変更後、Anaconda Powershell Prompt で以下のコマンドを実行し、文字制限が解除されたことを確認する。(文字制限が解除されていれば 1、解除されていなければ 0 が出力される。)

(Get-Item -Path

"Registry::HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\FileSystem").GetValue("LongPathsEnabled")



● Windows 環境変数の追加

手順1の(1)と同様の方法で、ユーザー変数 CDIR を新規作成する。

変数名(N):CDIR

変数値(V): %USERPROFILE%¥miniconda3

● スクリプトのコピー

Satellite Tool のソースファイルをホームフォルダ(%USERPROFILE%)の下で展開する。自動化も行う場合は Automation のソースファイルもホームフォルダの下に展開する。(それぞれ%USERPROFILE%¥SatelliteTool、%USERPROFILE%¥Automationというフォルダの下に Python スクリプトが置かれるようにする。)

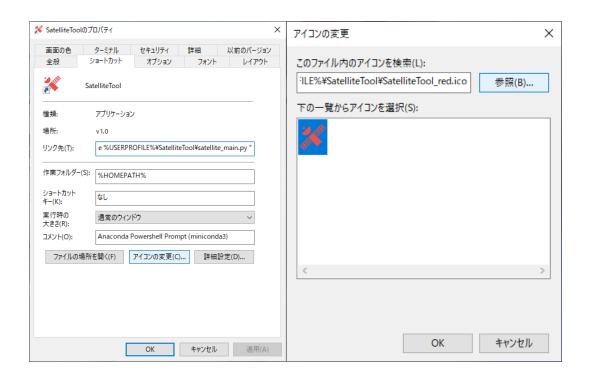
※ 最新版のソースファイルは GitHub から入手することができる。

SatelliteTool: https://github.com/nahiro/satellite_analysis

Automation: https://github.com/nahiro/calc_trans

● ショートカットのコピー

SatelliteTool.lnk をデスクトップにコピーする。コピーしたショートカット上で右クリックし、アイコンの変更で%USERPROFILE%¥SatelliteTool¥SatelliteTool_red.ico を選択する。



※ SatelliteTool.lnk の代わりに SatelliteTool_noexit.lnk を使うと、スクリプト実行後にコンソール画面が開いたままになる。(SatelliteTool.lnk を使った場合、スクリプト実行後にコンソール画面が閉じられる。)

● データのコピー

必要に応じて、以下のファイルをローカルマシンに保存する。

- NAS サーバからのデータダウンロードに必要なファイル: %USERPROFILE%¥.netrc
- Bojongsoang の解析に必要なファイル・フォルダ:
 %WORK%¥Shapefile¥Bojongsoang (フォルダごと)
 %WORK%¥WorldView¥wv2_190816_mul.tif
 %WORK%¥Sentinel-2_Data¥Bojongsoang¥parcel_mask.tif
 %WORK%¥Sentinel-2 Data¥Bojongsoang¥studyarea mask.tif

```
%WORK%\Sentinel-
```

- $2_Analysis \verb| Bojongsoang \verb| ECurrent \verb| Formula \verb| Formula \verb| Score \verb| mean.csv| \\$
- ※ Copernicus サーバから Sentinel-2 L2A データをダウンロードする場合は以下のファイルも必要
- %WORK%¥Sentinel-2_Data¥Bojongsoang¥bojongsoang.json
- ※ 作付日推定を行う場合は以下のファイルも必要
- %WORK%¥Sentinel-1 Data¥Bojongsoang¥bojongsoang.json
- %WORK%¥Sentinel-1_Data¥Bojongsoang¥Bojongsoang.shp(.shx 等を含む)
- %WORK%\Sentinel-1_Data\Bojongsoang\incidence_list.dat
- %WORK%\Sentinel-1_Data\Bojongsoang\pixel_area_block.dat
- %WORK%\Sentinel-1_Data\Bojongsoang\x_profile.npy
- %WORK%\Sentinel-1_Data\Bojongsoang\y_profile.npy
- Cihea の解析に必要なファイル・フォルダ
- %WORK%¥Shapefile¥All_area_polygon_20210914 (フォルダごと)
- %WORK%\WorldView\wv2_180629_mul.tif
- %WORK%¥Sentinel-2_Data¥Cihea¥parcel_mask.tif
- %WORK%\Sentinel-2_Data\Cihea\studyarea_mask.tif
- %WORK%¥Sentinel-2_Analysis¥Cihea¥Current¥formula¥pm_formula_score_mean.csv
- ※ 作付日推定を行う場合は以下のファイルも必要
- %WORK%¥Sentinel-1 Data¥Cihea¥cihea.json
- %WORK%¥Sentinel-1_Data¥Cihea¥Cihea.shp (.shx 等を含む)
- %WORK%¥Sentinel-1_Data¥Cihea¥Cihea_outline (フォルダごと)
- %WORK%\Sentinel-1_Data\Cihea\Sincidence_list.dat
- %WORK%¥Sentinel-1_Data¥Cihea¥find_nearest.npz
- %WORK%¥Sentinel-1_Data¥Cihea¥paddy_mask.tif
- %WORK%\Sentinel-1_Data\Cihea\paddy_mask_studyarea.dat
- %WORK%\Sentinel-1_Data\Cihea\paddy_mask_studyarea.tif
- %WORK%\Sentinel-1_Data\Cihea\pixel_area_block.dat
- Testsite の解析に必要なファイル・フォルダ
- %WORK%\Shapefile\Testsite_polygon_20210914(フォルダごと)
- %WORK%¥WorldView¥wv2 180629 mul.tif
- %WORK%\Sentinel-2_Data\Testsite\parcel_mask.tif
- %WORK%¥Sentinel-2 Data¥Testsite¥studyarea mask.tif